



## 手足のしびれと 歩きにくさはありませんか？



国保成東病院  
診療部長(整形外科) 新 正明 医師  
あらもみ まさあき

### 整

整形外科には、四肢の痛みやしびれ、腰痛などを訴えてくる患者さんがたくさん受診されます。その多くは薬、リハビリ、器具、注射などの保存治療で良くなります。これらの治療をしばらく続けても、どうしても良くならない場合には手術治療を行うこともあります。つまり手術は、他の治療が効かない場合の最後の手段です。

### こ

板ヘルニア、頸椎性脊髄症、頸椎後縦靭帯骨化症、頸髄腫瘍などです。これらの疾患では頸椎(首のほね)の部分で脊髄が圧迫され、手や足のしびれ、箸が使いにくい、ボタンが留めにくいなど指の細かな動きの障害、歩く際のふらつき感などの症状が出ます。あるいは頻尿や残尿感などの症状がでることもあります。

これら脊髄の病気のほとんど、先述述べた薬やリハビリなどの保存治療があまり有効ではなく、箸が使えない、歩けないなど重症化する可能性があるということです。手術を受けたとしても完全に治らないことが多いということです。

### も

脊髄はダメージに弱い神経なので圧迫された状態を長期間放置しておく、どんどん神経が傷ついてしまいます。また、脊髄は回復能力に乏しいため、ひどく損傷を受けると元には戻りません。つまり脊髄がひどく損傷を受ける前に圧迫を取り除く必要があるのです。従って診断がついた時点ですぐに手術が必要になることもあります。

脊髄・脊髄の手術とは、神経を圧迫している椎間板や骨棘(骨のつばり)を削ったり、あるいは不安定な脊椎を固定したりと、おもに「神経のまわり」を手術するものです。神経の機能が十分発揮されるよう環

### 問

境を整えてあげるのが主な手術操作であって、神経を直接治療するのではないのです。従って、手術によって症状がどの程度良くなるかは、圧迫を取り除いた神経の回復能力によって異なります。神経の圧迫が軽く、症状が発現してから手術を受けるまでの期間が短いほど神経は良く回復します。一方、神経そのものがすでに完全に機能を失っている場合は、手術をしても全く回復しません。

しあなたに手足のしびれ、歩きにくさなどの症状が出てきたら、いったいどうしたらよいのでしょうか？その答えは早期発見、早期治療です。重

### 問

症になる前に正しく診断し、手術の時期を逃さないことです。重症になる前に手術を受ければ、ある程度の回復が期待でき、その後の進行も予防できます。現在では比較的安全に脊椎・脊髄の手術を受けていただく事が可能となっておりますが、重症になる前の方がさらに安全に行えます。手足のしびれや歩きにくくなってきたのを「年のせい」と片付ける前に、一度整形外科を受診されることをお勧めします。

問合せ 国保成東病院  
地域診療連携室  
☎(82)2521

### シリーズ No.12

## 地域医療 Q&A

市民の皆さんからいただいた地域医療、救急医療についての質問を、シリーズでお知らせしています。

### 子どもの平熱は？

**Q**1歳になる子どもですが、普段あまり子どもの熱を測ったことがなく、測ってみたら37度ありました。熱があるように思いますが、発熱は38度以上というように聞きました。子どもの平熱はふつうどのくらいですか。

**A**お子さんの場合は、大人よりも平熱が高く、36度5分から37度くらいが平均的です。多少、個人差はありますが、できるだけ普段から体温を測り、平熱を知っておくことが大切です。

また、発熱は、体の負担になりますが、防衛反応のひとつです。人間はウイルスや細菌等に感染すると熱を出して、体内に入り込んだウイルスや細菌の活動を抑えようとします。平熱との差が1度未満で、全身の状態が良好であれば心配りません。このような目安のためにも、お子さんの平熱を確認しておきましょう。

(千葉県小児科医会発行の子どもの急病ガイドブック参照)  
問合せ 健康支援課保健予防係  
☎0479(80)8383